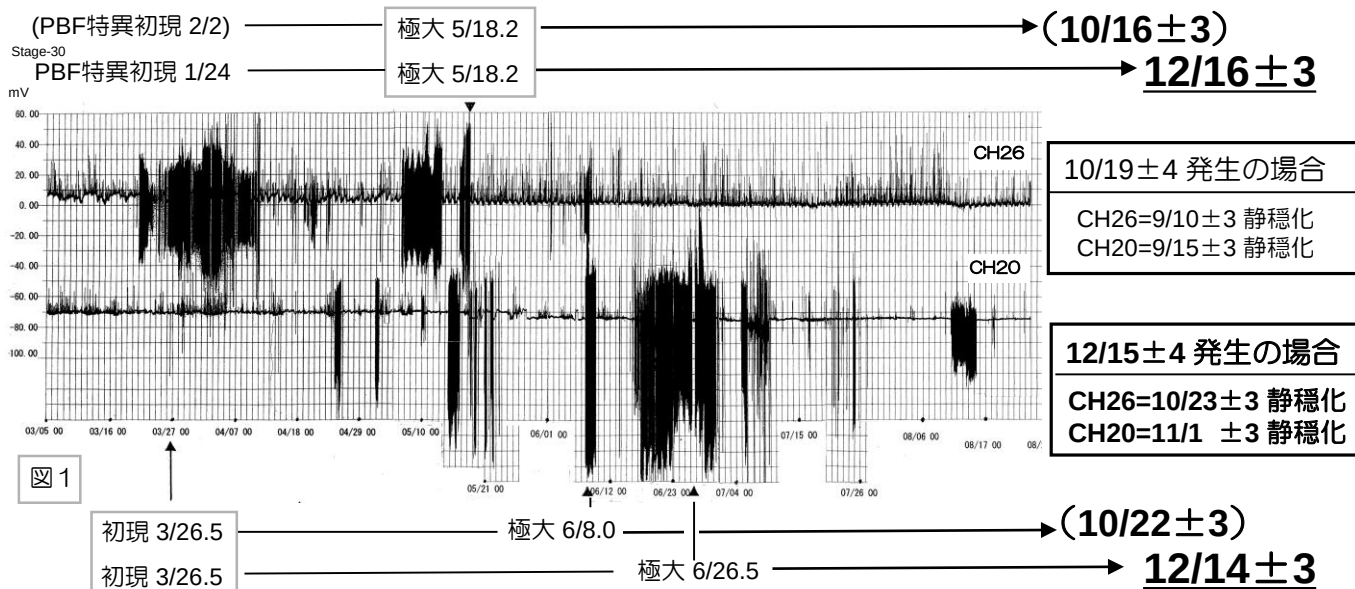


※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、№1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。№1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。№1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様に№1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。№1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

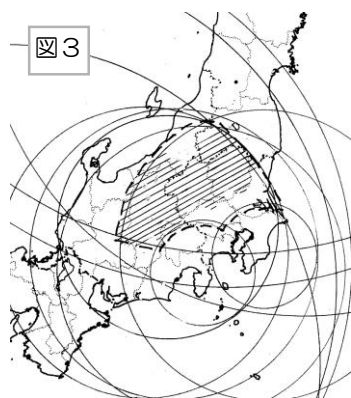
№1778 長期継続前兆続報 PBF特異継続中 9/28以前発生の可能性否定 再再考 (10/19±4) or 12/15±4 発生の可能性有 変動静穏化で推定予定 図修正版



◆№1778長期継続前兆変動のCH26とCH20は図1のとおりです。CH20にはPBF特異は認められなくなりましたが、昨夜8/24夜から図2のとおり、CH26と同期したPBF特異変動が出現しました。8/25昼前からはCH20のPBF特異は消えました。8/25昼現在CH26にPBF特異変動が継続出現していることから、前情報までで可能性を考えた、9/23±3 発生の可能性は完全に否定されました。

◆この観測事実から更に再考。CH26の顕著特異変動は、5/18.2（図1上側で四角で囲んだ時期）の最大値変動が極大の可能性と認識されます。CH20の顕著特異変動は、3/26.5（図1下側で四角で囲んだ時期）の短時間の顕著特異変動が初めて現れた時期が初現の可能性と認識されます。この二つの時期が仮に正しいと仮定して同じ発生時期が求められるか検討しますとCH26＝PBF特異初現時期 CH20＝顕著特異極大時期 の再検討が必要となります。

◆CH26のPBF特異初現はStage-30としたPBF特異初現1/24の可能性。これ以前は約一ヶ月間静穏が継続していますので、1/24以前は考えにくい。この関係からは12/16±3発生の可能性が示唆されます。可能性は低いですが、1/24初現のあと、離れて2/2にPBF特異が短時間ありますが、これを初現としますと、10/16±3が示されます。CH20の極大は一番顕著な変動の中で隙間の



- 推定領域：図3の点線領域内＝大枠推定領域
図3斜線域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3（単発の場合）または複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性
- 推定時期：現状 (10/19±4) or 12/15±4 発生の可能性有
CH26・CH20の実際の変動静穏化を観測し推定予定
- 推定地震：震源浅い陸域日本列島の地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3
(BT変動出現終息時間帯から推定)

※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難

空いた時期 6/26.5を極大認識しますと、12/14±3発生の可能性が示唆されます。また6/8を極大認識した場合は10/22±3が示されます。

◆前述の各2種の関係を鑑みますと、12/15±4の可能性の方が考えやすい様です。どちらが正しいか、または2種とも違う時期となるかは、実際のCH26・CH20の変動の静穏化を観測して推定する予定です。続報でご報告させていただきます。